

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

令和 7 年 7 月 23日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 防災研究所

職 名 教授

氏 名 川池 健司

助 成 の 種 類	令和6年度 ・ 研究活動推進助成		
申 請 時 の 科 研 費 研 究 課 題 名	建物被害に着目した洪水氾濫リスク評価モデルの実験水理学的検証		
上記以外で助成金を充 当 した 研 究 内 容	特になし		
助 成 金 充 当 に 関 わ る 共 同 研 究 者	(所属・職名・氏名) 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻・博士後期課程学生・脇谷新 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻・博士後期課程学生・Chen Xi 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻・修士課程学生・畑健斗		
発 表 学 会 文 献 等	(この研究成果を発表した学会・文献等) 脇谷新他:建物配置と粒径が洪水氾濫時の土砂堆積に与える影響に関する実験的研究, 河川技 術論文集, 31, 295-300, 2025. Chen Xi et al.: Applicability of 2D hydraulic model for small-scale urban flood scenarios in heritage sites: A case study of Katsura imperial villa, Japan, 41st IAHR		
成 果 の 概 要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、 添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	1,500,000 円	
	使用した助成金額	1,500,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	費 目	金 額
		旅費	876,571円
		消耗品	423,429円
		その他	200,000円
当 財 団 の 助 成 に つ い て	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 令和6年度は申請した科研費が不採択になり、予算的に大変厳しい年度になるところでしたが、助成をいただ いたおかげで複数の学生の実験研究を進めることができ、論文発表・国際学会での口頭発表等につなげるこ うことができました。また、今回の研究成果を基に、令和7年度は「気候変動時代を生き抜くための氾濫リスクとそ の軽減効果の高精度予測技術開発」という課題名の科研費・基盤Bに採択いただくことができました。この度 の助成に大変感謝しております。ありがとうございました。		

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

令和7年 7月 23日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 防災研究所

職 名 教授

氏 名 川池 健司



助 成 の 種 類	令和6年度 ・ 研究活動推進助成		
申請時の科研費 研究 課 題 名	建物被害に着目した洪水氾濫リスク評価モデルの実験水理学的検証		
上記以外で助成金 を 充 当 し た 研 究 内 容	特になし		
助成金充当に関 わる 共同 研究者	(所属・職名・氏名) 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻・博士後期課程学生・脇谷新 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻・博士後期課程学生・Chen Xi 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻・修士課程学生・畑健斗		
発表学会文献等	(この研究成果を発表した学会・文献等) 脇谷新他:建物配置と粒径が洪水氾濫時の土砂堆積に与える影響に関する実験的研究, 河川技 術論文集, 31, 295-300, 2025. Chen Xi et al.: Applicability of 2D hydraulic model for small-scale urban flood scenarios in heritage sites: A case study of Katsura imperial villa, Japan, 41st IAHR		
成 果 の 概 要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、 添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	1,500,000 円	
	使用した助成金額	1,500,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	費 目	金 額
		旅費	876,571円
		消耗品	423,429円
		その他	200,000円
当財団の助成に つ い て	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 令和6年度は申請した科研費が不採択になり、予算的に大変厳しい年度になるところでしたが、助成をいただ いたおかげで複数の学生の実験研究を進めることができ、論文発表・国際学会での口頭発表等につなげるこ とができました。また、今回の研究成果を基に、令和7年度は「気候変動時代を生き抜くための氾濫リスクとそ の軽減効果の高精度予測技術開発」という課題名の科研費・基盤Bに採択いただくことができました。この度 の助成に大変感謝しております。ありがとうございました。		

成果報告書および成果の概要は、Excel・Wordファイル(印鑑不要)で info@kyodai-zaidan.or.jp 宛、
メール送信して下さい。